

国立国語研究所学術情報リポジトリ

鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上村, 孝二 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003027

方言録音資料シリーズ—7

鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦方言

上　村　孝　二　編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者 大石初太郎) の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、鹿児島大学教授 上村孝二 が担当した。

もくじ

収録地点とその方言について	2
表記について	4
本文	
1. 鹿児島見物	5
2. 民話：本妻と情婦	13
3. お祭り	17
4. 海の遭難	26
注	37

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：鹿児島県熊毛郡上屋久町宮之浦

2. 収録地点の概観

宮之浦（人口4,500）は早くひらけた港だ。藩政時代には奉行駐在所がおかれた。今日も高等学校、裁判所、上屋久役場などあり、文化政治の中心地である。なお安房とともに島の表玄関でもある。ほとんど農業に従事するが、昔は飛魚漁期（4月～6月）には男子は漁獲に参加するものであったが、今日は漁は不振で、むしろ屋久島発電所などの工場が出来この方に勤める人が多くなった。鹿児島から直行の定期船（5時間要）が着き、種子島への渡島もこの宮之浦港を利用する。最近は登山と觀光の客の往来はげしく、シーズンは港は活気を呈する。屋久杉、木炭などの外農産物では甘藷が主である。

3. 収録した方言の特色

屋久島方言は種子島方言と違い、うんと薩隅方言に接近する。しかし薩隅方言を区分するときはやはり特殊な位置に立つ。今鹿児島地方の方言と比較してみると次のような諸点がちがう（宮之浦方言だけについて比較）

〔音声〕 1. 母音エは〔e〕であって〔j e〕ではない。

2. オ列長音において〔au〕系〔eu〕〔ou〕系のものはすべて〔o:〕だ。

3. カーキ（柿）ナーミ（波）のようにイ・ウ列音節の前の母音は長い。

4. 母音を短音化することもあるが、鹿児島方言のように徹底したものではない。

5. ガ行鼻音（語中語尾）を使う。

6. タ行音カ行音は稀に濁音化する。

7. ジ・ヂ、ズ・ヅの別はない。

8. 〔r〕音の脱落がはげしい。又その結果母音が重複するので〔j〕〔w〕などが挿入される。

9. ダ行音はラ行音化する。ザ行音もダ・ラ行音化する傾向がある。

10. 入声音はない。

〔文法〕 1. 敬語法は発達していない。助動詞による敬意表現も稀だが、文末助詞でその代り補うということも十分でない。

2. 薩隅方言の準体助詞トの部分をテに言う傾向。ヨカテヤロ（いいのだろう）

3. 類似の意 ゴトアルもゴテアルという傾向。

4. 断定の助動詞はジャもあるがヤ(ヤル)などが特色。
5. 逆態の「けれど」はバッヂである。
6. 由の「から・ので」はカラ(カー)である。
7. 文末助詞にナオ(いい晚ナオ), ……モンノ(のに, ものを)がある
ねー
8. 肥筑方言のように対格にヲ(オ)の外にバを用いる。
9. 肥筑方言のように形容詞のサ語尾詠歎法がある。日ノ長サ(長いことよ)

[語彙] ① スバトー(てんてこ舞する) ② キムル(叱る) ③ トビウオドリ(時鳥)
④ ワスル(来られる, 唯一の敬語動詞だが敬意はそう高くない) ⑤ オミ(あなた, 御身) ⑥ ショイナゲ・センナゲ(下水留)

○は種子島と共通。

4. 地点選定の理由

薩摩方言を録音テープで聴くばあい, 薩摩本土中ではどこの方言を採録しても他県人には一様に聞えると思い, 思い切って離島から選ぶことにしたもの。入声音のこと, アクセントが鹿児島地方と違いニ型アであっても次のような高低を示すことなどで(三音節語以上に頭高があらわれるなど), 鹿児島ばなれが感じられるであろう。

宮之浦	a型	ガ オ オガ オオ オオガ
	b型	ガ オー オーガ オー オーガ

屋久弁の方が鹿児島弁より一般にわかりやすいだろう。

表記について

[指定の字母以外に使用した字母、および使用した補助記号]

特になし

- 文末助詞 na:, ne:, nao の類はすべて前文にくっつけて表記した。
- 断定の助動詞 z ja, ja などはやはり自立語的なので離して表記。
- 敬謙表現はほとんどなきにひとしき状態だし、文末助詞が十分代って働いているとも思えないので、男女、老若の差が感じられないほどぶっきらぼうの標準語訳になっている。やむを得ない。

1. 鹿児島見物

録音日時 1967年7月18日

録音場所 宮之浦田代旅館

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
A	岩川シオ	女	明治29年生	農業	宮之浦に生れずっと現在まで居住
B	松田助市	男	△ 33年生	木炭製造業	0才～18才在郷 19才八幡(北九州市) 20才(和歌山市) 21才～24才(佐世保海兵団入隊) 45才～46才(召集、南方へ) 46才～現在(在郷)

解説： Aが親類の子供が鹿児島市の病院に入院しているのを見舞に鹿児島に行って来たと言え
ば、Bは初耳だと答え、宮之浦も大きくなったので、そのことは中々耳に入らないものだと話し
合う。ついで、お互に鹿児島の風景のよさ、最近の大きく発展していくありさまを以前の鹿児島
と比べて語る。ついで交通事故も多くなっていることに及ぶ。Bは鹿児島では交通事故に注意せよと
子供らに注意をうけるほどであると言う。一度鹿児島に遊びたいが腰痛もあり出られそうもないとも
言う。終りに指宿のヘルスセンターのことにも及ぶ。

A konogoro kagosimai itaq mitaya kagosima honno-
このごろ 鹿児島に 行って 見たが、鹿児島は ほん
kote mo: bena tokoino yoto naqcjoqtejane: oja
とに もう 別な 処の ように なっているのよ。 私は
sionen mae itatekara konda hazimeci itato jaq-
4, 5年 まえ 行ってから 今度は 初めて 行ったの だっ
taga
たが。

B wa: nanno jo: zide itatokai
あんたは 何の 用事で 行ったのかい。

- A o ja itokoga bjo inni nju:in sic joqta mon zjaka:jo
私は いとこが 病院に 入院 していた もの だからよ。
- B bjo inni naNno bjo:kidejo
病院に? 何の 病気でなの
- A ke ga sic joqte jo a:sjo cuNma yec joqte.... ano
怪我 しているのよ。 足を 折り曲げていて あのう
mimai itato jaga:j o
見舞いに 行ったのだよ。
- B ke ga dokode ke ga sitatokajo
怪我? どこで 怪我 したのかね。
- A dokode ke ga sitaka dokoka jakurenka⁽¹⁾ doqkade
何処で 怪我 したか, どこか 屋久電か どこかで
ke ga sitato jaqdo:a
怪我 したの だろう。
- B jakuden ni de joq tataoka soja
屋久電に 出ていたのか それは。
- A de joq tato jairo
出ていたの だろう。
- B N: Nda hazimeci jaga
うん。わしは 初めて だが。
- A wan ta hacumimi zjaqtajoya jaqpai mo: imawa
あんた達は 初めて だったろうよ。 やはり もう 今は
mukasino yote nakawai mukasja muraga koma-
昔の ように ないわい 昔は 村が 小
kaqtaga su iqki wakai joqtabaqci mo: imawa na-
さかったが (言いまちかい)すぐ わかる ものだったけど, もう 今は な
kanaka wakainiqkagane:
かなか わかりにくいやね。
- B N: sa: mo naNtoka jai moNno⁽²⁾ hamadore siNda
うん, そう もう 何とか だ もの。 浜戸で 死んだ
hita: waq dano-sja si jaN jona mon zja: monne:⁽³⁾
人は 脇町の連中は 知らない ような もの だ ものね。

A so i jo mo i ma: ga q cui waka: N do na n y a n and e-
そうよ。もう今はほんとにわからない。何が何でや
(5) ka z jai jo · ho s i te mo k o d o n mo jo: o j a n o n a mae-
らだろうか、そしてもう子どももね、親の名前
re mo iwa n n ja mo r a y a k o re ka z jai jo mo hito-
でも言わなきゃもう誰の子やらだろうか、もう少
c u m o s i j a N
しも知らない。

B h o N n o k o q: z j a mo hito c u m o wakar a N
ほんとうだ。もう少しもわからない。

A wa n da s i q c j o k a q s i j a n b a q c i N da mo hito c u m o
あんた達は知っているか知らないけど、私はもう少しも
s i j a N d o mo t o s j o t o q t a j a
知らんもう年をとったら。

B N domo N domo hito c u m o wakar a N
わしも(言いよどみ)少しもわからない。

A so n n a m o N z j a q t o j o n e: j o n o n a k a c j u w a mo;
そんなものだよね、世の中と言うのはもう、
u q t e k a w a q t e s i t a k u o s i t a k u g a c i y a i mo na N-
うって変わって(言いまちがい)支度が違い、もうなん
z j a k a n z j a mi n n a c i y o : t e k u ⁽⁶⁾ h a k i m o N k a : r a
だかんだみんな違って行く。履物から
k i m o N k a : y a c i y o c j o q t e j a m o N n o
着物からが違っているんだもの。

B z j a r a : i ⁽⁷⁾
そうだわい。

A m a t a k a y o s i m a n a d e i t a t e meba b e q k a k u m a t a
又鹿児島などに行って見れば別格又
c i y o : w a i n e:
違うわいね。

B m a : k a y o s i m a m o n a y o i t a c j a m i r a N y a c i y o c j o q
まあ鹿児島も永く行つては見ないが、違っている

A z jar o; jo
だろうよ。

A k a g o s i m a n o t e n m o n k a n n i j i t a t o k j a b i q k u i
鹿児島の 天文館に 行った 時は びっくり

s u r a i n e: h i t o n o o : k a k o t o j o
するわね。 人の 多い ことよ。

B z j a r a i
そうだわい。

A j o k e: h a s i q c j o N g a k u r u m a: k u r u m a t o d e N s j a -
余計に 走っているよ 車は。 車と 電車
n i m o n o i t o a N y o t o a n y a b a t a b a s i c j o e b a n o i s o -
にも 乗りきれない ように あるよ。 うろうろしていれば 乗りそ
k o n o y o t o a q d o
こなう ように あるよ。

B h o n n a r a m o: t o : k j o: c j u: c i b a q c i m o k a g o s i m a -
それなら もう、 東京 と言うけれども 鹿児島
m o h e q j a q p a i j a o i k a n d o n e:
も (息づかい) やはり ざっと 行かないね。

A j a o i k a n d o k o i k a i m u k a s i k a: u t a y a a q z j a n e k a
ざっと 行かない どころかい。 昔は 唄が あるではないか。
j a k u z j a m i j a n o u r a t a n e d e w a a k o y i m e i s j o d o k o -
「屋久では 宮之浦 種子では 赤尾木 (言いまちがい)

k a m e i s j o d o k o r o w a k a g y n o s i m a t o u t a y a a q z j a
(言いまちがい) 名所どころは、 鹿児島」と 唄が あるでは
n e k a w a:
ないか あんた。

B s o: s o:
そう。 そう。

A s o n e N j u : t e w a: m u k a s i k a: n o m e i s j o j a m o N n o
そんなに 言って あんた、 昔からの 名所 だ ものね。
s o i n j a m a e n j a s a k u r a z i m a o h i k a e t e n a n c j
それには、 前には 桜島を ひかえて 何とも

uwa na:N nai honni
言え ないわね ほんとに。

B k a y o s i m a m o t a i h e N n a mo n a o h i r o : n a q t a m o N
鹿児島も 大変な もう なお 広く なつた もの

z j a g a n e :⁽¹⁴⁾
だからね。

A mo : i q p a i h i r o : n a q t e t a m o N k o N d a t a n i j a m a
もう いっぱい 広く なつていた もの。 今度は 谷山
made h i q k o : de k i t e n a o w a : b u t o : n a q t a w a
まで 引きこんで 来て なお あんた, 広く なつた あんた,
k a y o s i m a m o
鹿児島も。

B t a n i j a m a n o b u n d e m o w a : a g e n a h i r o k a q t a t o j o
谷山の ぶんでも あんた, あんなに 広かったのよ。

A mo s o N i m a : n a N b a i m u k a s i n o n a N b a i n a q c j o -
もう そのお 今は 何倍, 昔の 何倍に なつて
t o j a m o N n o m o : a n o n a N (c u k a) j o s i n o n o h e N -
いるんだ ものね。 もう あの 何と言うか, 吉野の 辺
k a : z u : q t o e g a d e k e t e n e :
から ずっと 家が 出来てね。

B z j a o h o N n a ' i t a t o k j a j o s i n o N h e N n a m a : r a⁽¹⁵⁾
そうだろう。 それなら 行った 時は 吉野の 辺は まだ。

A z j u : t a k u g a d e k e t e h a n a s i n a : N y a
住宅が 出来て 話に ならないよ。

B j o s i n o h e N n a m a : r a h o N n o i n a k a j a q t a y a
吉野の 辺は まだ ほんの 田舎 だったよ。

A m o t o w a h i t o i s a i k i j o q t a g a i m a d o m a : r o k o y a
もとは 一人 歩くもの だったが, 今は どこが
d o k o d e k a z j a o : m o h i t o c u m o w a k a : N t o j o
どこなんだやら, もう 少しも わからないのよ。

B s o
そう。

- A wa: konogora ikan tokai
あんた、この頃は……、行ったのかい。
- B mo oimo nago: ikan ro:
もう わしも 永く 行かないよ。
- A aqpa i cjoicjoi ikan njanejo ano waka:N oote
やはり…… ちょいちょい 行かなければね、あの わからない ように,
nao naqtekudo⁽¹⁶⁾ mo cigo: te kita monno
なお なって行く。もう 違って 来た もの。
- B iko: to omocjoqtaqcimo kosiga itaka mon zjaka-
行こうと 思っていても 腰が 痛い もの だから
ne:
ね。
- A zjaya zjaga tabemonna cigausi
そうよ。…… そうよ。…… 食いものは 違うし,
- B ko:cuzikode mo: ha: de:mon⁽¹⁷⁾ zjaya ha:
交通事故で…… もう ほら おま事…… だよ, ほら。
- A zja: dekoizja naka⁽¹⁸⁾ mo soi ieba kangija naka
そうである 処では ない。もう それを 言えば 限りは ない。
mi jaN rani oqtemo ko:cuzikonja o:to jar o
宮之浦に いても 交通事故には 逢う だろう。
- B jo: so ja mo:
うん。 そう だ。 もう。
- A zibun ni kio kikasite sjaj:nto site mae usi-
自分に 気を 利かせて ちゃんと して 前 後ろ
to: mite saikeba hitocumo kega suru sewa:⁽¹⁹⁾
を 見て 歩けば 少しも 怪我 する 心配は
nakato jo jaqqai kokodemo batabata sicjoeba
ないのよ。 やはり 此処でも うろうろ していれば
kega suq to jar o
怪我 するの だろう。
- B ha: konomae ita tokinanda mo musikoga gao-
はあ。 この前 行った 時なんかは もう 息子が ひど

cui siNbai site (aha) siNpai sunnaci juba-
く 心配 して (息づかい)「心配 するな」と 言う

qcimo kikanto ja ya
けれども、きかないの だよ。

A jaqpa i kowa ojao omo: tojo (B N'N') siNbai
やはり 子は 親を 思うのよ。 (うんうん) 心配

site ke keganado sase ja senkaci jaqpa omo
して (言いさし)怪我など させは しないかと, やはり 思う
(20)
doko izja naka
どころでは ない。

B oja: antaci no siNpai sendemo kaiyuunde soiko-
わしは お前たちが 心配 しなくとも 海軍で それこ

sa gwaikokumo zu: qto sa saicjoru otoko
そ 外國も ずっと (言いさし)歩いている 男
(21)
jaya nan no sonna siNpai siga ijanci juba q-
だよ。 何の そんな 心配 しなくとも よいと 言う

cimo zi:cjan mukasito imawa aha cipote ja ya
けれど、「爺ちゃん 昔と 今は (息づかい)違うの だよ。

soren son jokuba qta kocu i:jan naci ehe...
そんな その 欲ばった ことを 言いなさんな」と (息づかい)…。

A zja: rokoizja naka mo mukasito imato ci bo: te
そうである 処では ない。 もう 昔と 今と 違って
mukasino nayasaki ga imano jakusimano jona
昔の 長崎が 今のは 屋久島の ような

moN zjaqto jaro sono ata:i kan ge c jora nn ja mo
もので あるの だはう。 その 当りに 考えていなければ、 もう
kaosimanimo meqtani dej a na:nnai mo ima:
鹿児島にも めったに 出られは しない, もう 今は。

B N: nakanaka buqso zjai monnone:
うん, なかなか 物騒 だ ものね。

A buqso: jo ikudemo mo: ikuto omoeba hiko:ki-
物騒よ。 行くにしても もう 行くと 思えば, 飛行機

ka: demo hunemo naNromo kurusi jokato jabaqci
ででも、船も 何度も 来るし、結構だ けれども

nakana ka itateka: sa:kiga mo hito i aruki ga
なかなか 行ってから 先が もう 一人あるきが

dekeN goto naqtai to inamonn naqtaja mo
出来ない ように なったり、 年寄りに なったら もう

baqtai mo na:Nnjo⁽²²⁾
すっかり もう 駄目だわい。

B naNtoko no ano bara ibusukino herususeNTA:n-i-
何とかいう あの ほら 指宿の ヘルスセンターに

mo itate azaika asura koto ya aqta ya
も 行って ずいぶん 遊んだ ことが あったよ。

A oja ahikon ja itac ja mija NTone: ibusukin ja
私は あそこには 行っては 見ないのね。 指宿には。

hokan toko ja mo iq p a i mawaq c jo q baq cimo mo:
外の 処は もう みんな 固っているけれども もう、

ibusuki dake ja ikanz ja ga konomae iko ja cuta-⁽²³⁾
指宿だけは 行かないんだよ。 この前 「行こうや」と言った

baq ci sonnai ikanzi soa isoqasusite modoq te
けれど、 そのまま 行かないで ほら、 忙しくて 戻って

kita tokini
来た とき。

B modoq teka: amega huq te wa: (A e:) aqzawaika
戻ってから 雨が 降って あんた、 (ええ) ひどく。

A ameno hiwa mo haqtai mo na:Nnaine: (B N.)
雨の 日は もう 全く始末に おえないね、 (うん)

doko demososite mo: bijo:ninmo mo: jo: naqte
どこでも。 そして もう 病人も もう よく なって

warai jokaq tajo
大変 よかったよ。

B zjara i maq.....
そうだわい。まあ

2. 民話：本妻と情婦

録音日時 1967年7月18日

録音場所 宮之浦 田代旅館

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

A 岩川シオ 女 明治29年生 農業 宮之浦で生れずっと居住。

解説： 本妻の外に情婦をもつ男が情婦とかたらって、本妻をもどし情婦を入れようとした計画が失敗した物語り。男と情婦との計画では、次のことを本妻が叶えぬなら、口実に本妻をおいだすものであった。1.本妻は絣のはかまが縫えるか。 2.本妻の秘蔵する三昧線を情婦に貸してくれるか。 3.本妻の秘蔵する琴を情婦に貸してくれるか。 4.本妻の大切な蘇鉄の木を情婦にくれるか、以上の順で話をもちかけ、つぎつぎに本妻が実行するので計画は失敗して行く。

A mukasi mi janourani nakano joi hu:hu ga aqta
昔 宮之浦に 仲の よい 夫婦が あった
aqia toko iya ro:ju mon z ja q taka otokono
(言いよどみ) ところが どういう もの だったか 男の
hitoga kiya kawaqte mi ja N rano maciharureni
人が 気が 変わって、 宮之浦の 町はずれに
ike njan o onnano hito i og tokini maibaN iku
一軒家の 女の 一人 いた とき、 每晩 行く
yote naqte soiba honsai a mjo:na koq zjato
ように なって それを 本妻が 妙な こと だと
mote cukete iqte mita toko iya hutai so:dan-
思って、 あとつけて、 行って 見た ところが 二人 相談
ne si joqte do'si temo an'o kazukoba morosan ja
を していて 「どうしても あの 和子を 戻さなければ
⁽²⁴⁾
ika nci cijokoto butai hu:hunja narana ja
いけないって。 千代子と 二人 夫婦には 成ることは
(言いまちがい)

na:nka: dositemo modosanija ikan ga sen don-
出来ないから、 どうしても 戻さなければ いけないが (意味なし) どん
na huni site modoseba jokatokai jutaja ci-
な 風に して 戻せば よいのかい」 と言ったら、 千
jokoga ju:nja ano wa:neno kazukowa ma hino
代子が 言うには 「あの あんた所の 和子は まあ 緋の
hakamao nuiya naijokaine cjutaci sa: si ja:-
はかまを 縫うことが できようかいね」 と言った。 「さあ しらな
Nnjo nuiya naijokae soimo ju:te mijanija
いよ。 縫える だろうか。 それを 言って 見なけりゃ
waka:N hona son hino hakamao nuiya naebajo
わからない。 そんなら その 緋の 裕を 縫うことが できればね,
jokabaqci nuija na:N to se:ba mo soide hito-
よいけど 縫え ないと すれば、 もう それで、 一
cude hanete hutai meoton i naNga cute jaqtat-
つで 戻して 二人 夫婦に なるよ」 と言って なった
ci soika: sono onayoga sono ban na cukekake-
って。 それから その 女が その 晩 (男の)あとをつけ
te kite dokoni itacjo i jokato mote kitato-
⁽²⁸⁾ 来て、 どこに 行っているかと 思って 来た と
koiga hutai sono banasjo hino hakamano hana-
ころが 二人 その 話を、 緋の 裕の 話
sjo si joqtaci son hino hakama (cju) wa iken
を していたとさ。 「その 緋の 裕 と言うのは どのように
site cukuqtokai cju:taja konen site jo:kone-
して 作るのかい」 と言ったら、「こんなに しよう、 こんな
site akaka kiede konen site watamo irete
に して 赤い 布で こんなに して 締も 入れて
cukuqto jaro: cju:taj…… sosite sono onayowa
作るの だろう。」 と言った。 …… そして その 女は
mo hon sija sugu modoqte kite i esame hosita
もう 本妻は すぐ もどって 来て、 家の方へ。 そした

tokoiga asuno-asai naqta tokoiga karuko
ところが、翌朝に なつた ところが 「和子」

ma: ano hakamao nuiya naqkae cjuta tokoiga
まあ あの 裕を 縫うことが、出来るか」と言った ところが

nuiya naqdo: cjutaci hona nu:te me cjutete
「縫えるよ」 と言ったって。「そんなら 縫って 見よ」と言っておいて、⁽²⁹⁾

soide kieo ko:te kite sosite hino hakamao
それで 布を 買って 来て、そして 緋の 裕を

nu:te sohite tonozjoni watasite tonozjo:pa
縫って そして 夫に 渡して 夫が

moqte iqqtaci mata asuno-baNmo sono to:i
もって 行ったって。又 翌晩も その 通りに

mata miDino to:ini sono onayon tekoisame
又 右の 通りに その 女の 処へ

iku monzjaka: cukekakete ita tokoiga hutai-
行く ものだから、あとつけて 行った ところ 二人

no g iNmiga koizja mo totemo ai zjaaa aiya
の 吟味が、「これでは もう とても あれ だよ。 あれが

samisenno daizini sicjonya aiba samisenno
三味線を 大事に しているが、あれを、三味線を

kase cjute mijokaici samisenno daizini
貸せ と言って 見ようかい」と。「三味線を 大事に

site mo: kanzinsaman i sicjion moN zjaka:
して もう 効進様に している もの だから,⁽³⁰⁾

soi so:danno site me soiqa so:danni na:Nto
それに 相談を して 見よ。それが 相談に ならないと

se:ba mata naNtoka na:Nnja na:Nya cjute
すれば また 何とか ならなきゃ ならないよ」と言って

jute ho:sita tokoiga hutaja mo samisenno
(言って)。そうした ところが 二人は もう 三味線の⁽³¹⁾

hanasjo si joi mon zja koikosa kasannja ikan-
話を している 様子 だ。これこそ 貸さなければ いけな

pato omote kazukowa…… modogte kite hosite
いがと 思って、 和子は …… もどって 来て、 そして

asitano-as a sono cijokoya kaike kite sami-
翌朝 その 千代子が 借りに 来て 「三昧

senno ke:te kuenka ha:i jasi koqzja hai
線を 貸して 「くれないか」 「はあい。 やすい ことだ。 はい。

(32) moqtaite kue moqtaite hi:te uto:te odoqte
もって行って くれ。 もって行って 弾いて 歌って 踊って

kue c jute jute motasite jaqta ho:sita toko-
くれ」 と言って (言って) 持たせて やった。 そうした とこ

iia mata sono aibammo itate mieba mo koizja
らが、 また その 翌晩も 行って 見れば もう、「これでは

toqtemo mo damasja na:Nya kond a koto: moq-
とても もう 欺すことは 出来ないよ。 今度は 琴を もっ

cjona ano kotowa kasuka kasankaya mondai
ているが、 あの 琴は、 貸すか 貸さんかが 問題

zjapa soi hito:cumata ju:te mijankai (cju-
だが、 それ 一つ また 言って 見ないかい」 と言

taci) hosite cijokoya asitano-as a karuko
ったって。 そして 千代子が 翌朝 「和子、

oini ano sono koto: kasite kuenkai ha:i
私に あのう その 琴を 貸して 「くれないかい」 「はい。」

moqtaite hi:te hi:te ikuwademo bi:te kuen-
もって行って、 弾いて 弹いて いくらでも 弹いて くれな

kajo (c jute) ano zjog zjai ajo: c jutaja
いかよ」 と言って、「あの 上手 だわね」 と言ったら、

zjogzja nakaba q cimojo: c jutaci soika: mada
「上手では ないけれどもね」 と言ったて。 それから 又

sono ban na mada cuke kakete itate mita toko-
その 晩は 又 跡をつけて、 行って 見た とこ

iga konda mo koizja toqtemo damasa na:Nci
らが、「今度は もう これでは とても 欺すことは できない。」

aiga hito: cu sotecuno kio mo q jōga soa mo
 あれが 一つ 蘆鉄の 木を もっているが、 それは もう
 toq temo daizini site in o cika niba Nme zjaga
 とっても 大事に して、 いのちから 二番目 だよ
 aikosa ajo kasa na: (oo) ka kasan c jukamo
 あれこそ。 あれを 貸すことは できない(りは言(言いさし) 貸さん と言うかも
 いまちがい?)
 si endo aikosa kasan c jukamo si en ga itate
 知れないぞ。 あれこそ 貸さないと いうかも 知れないが 行って
 me'ci sosite kaike kitaci son toki kazukoga
 見よって。 そして 借りに 来たって。 その 時 和子が
 iwakuni samisen kaside koto kaside sorejori
 曰くに、「三味線 貸して、 琴 貸して それより
 daizina oqtaba kaside nani ga osikaro oniwa-
 大事な 夫を 貸して、 何が 惜しかろ、 お庭
 no sorecu (c jutaci) to: to: hon sain ga jōnōna-
 の 蘆鉄」 と言ったとさ。 とうとう 本妻が 世の中
 ka: toq te toq tacu to: q tac jude sujo hutai
 は (言いまちがい) とったて。 通ったと言うですよ、 二人
 hu: hude to: qtaci
 夫婦で 通ったて。

3. お 祭 り

録音日時 1967年7月18日

録音場所 宮之浦 田代旅館

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
A	岩川シオ	女	明治29年生	農業	宮之浦で生れずっと居住
C	岩川貞次	男	〃39年生	商業	0才~18才(在郷) 18才~46才(大阪市) 47才~現在(在郷)

解説： 本来4月10日のお祭り日を4月3日に変更した町の神社の世話人Cは町民にうらまれたということから、現在の祭り当日がさびしいものになったと、お互に嘆く。昔は当日は非常に賑やかな行事がくりひろげられて、島内の小学校の生徒も弁当ごしらえで宮之浦の神社の祭りに集まつたものだ。中には神社にまいらず芝居だけを見るのが目的の人もいた。芝居には話手もそれぞれ役者になって演じたものだ。舞台にあがって唄をうたったこともある、などの追憶談に花が咲く、最後にAの民謡（漁師のうた）が唄われる。

A te i z i o z i (35) kon o go rono s i g a q t o : k a : i k e n a k a : -
貞次さん、 この頃の 4月10日は どんな 様

(36)
k u i j o
子かい。

C a : m a : ' k j o n e N m o s o i d e ' s o : d o : z i a q t a g a s a q -
ああ まあ、 去年も それで 驚動 だったが、 さっ

p a i c i k a y o r o w a m o : s a b i s j u : n a q t e k o i k a :
ぱり ちか頃は もう 淋しく なって。 これから

m o t o N t o : i h i t o c u s e N n j a n a : N c j u t e z i N s j a -
もとの 通りに、 ひとつ しなければ いけない と言って、 神社

n o j a k u n i N m o j o q t e s o : d a N o s i j o N g a i g e N
の 役人も 集まって、 相談を して いるが、 どんなに

n a q t o k a k j o n e N n a j o i m a n o : s i g a q t o : k a o h i n i -
なるのか。 去年はよう、 今の 4月10日を 日に

c i o k a e t e m i t a n a : c j u : k o q d e s o i d e : e : h i -
ちを 変えて 見たなら と言う ことで、 それで ええと 日

n i c i o m i q k a n i s i t e s i t a t o j o t o k o i g a s o i o
にちを 3日に して、 (祭)したのよ。 ところが それを

k j u : n i k a e t a j u : t e m o : t o k o : z j u : k a : s e m e k o : -
急に 変えた と言って、 もう ところ中から 責めた

(37) (38)
s a e t e w a r a e m e o : t a @ a
てられて、 ひどい目に 遭ったよ。

A z j a g a
そうだよ。

- C (39) n domimo koto sika: jakuni nn i naq ta baqkai zja-
 私も ことしから 役人に なつた ばかりだ
 ya mo semeko: saetaga
 が、もう責めつけられたよ。
- A ima mukasino yocja nosite mo' kaNsamano
 今は 昔の ようには なくて もう 神様の
 macui si temo niNyeNna zju:ninbaqkai mukasja
 祭を しても 人々は 10入ばかり, 昔は
 soNna monzja nakaqtaga
 そんな ものでは なかつたよ。
- C n i g i j a k a n a m o N z ja q t a d o : a n o m i k o s i o k a c u i -
 にぎやかな もの だったぞ。あの みこしを かつい
 de ikuto ju:to sa:kino naniya zu:q to murao
 で 行くと いうと, 先の 何が ずっと 村を
 hitomawari mawaqte kuqto juto si: no howa
 一廻り 回わって 来ると 言うと 戻の 方は
 ma:ra ima deta tokoini arujo:na koqde warae
 まだ 今 出た ところに あるような ことで, すごく
 ni g i j a k a n a m o N z ja q t a g a n a o
 にぎやかな もの だったがね。
- A hoNnokote waYa koya doke oqdeka zjaijo ima
 ほんとに わが 子が どこに おるの だろうか, 今
 hunko: saoq cjute so:do: sun monziagtaga
 踏みつけられる と言って 酷動 する ものだったが,
 imananda mo:.....
 今などは もう
- C hoika: mikosis amaya sumuto konda hamade
 それから みこし様が 濟むと 今度は 浜で,
 hamadebai ju:te bento: hiraite nigijakan i
 浜出張り と言って 弁当を 開いて, 賑やかに
 sun mon zjaqtaya imagora mo sabisi: monziao
 する もの だったが, 今ごろは もう 淋しい もの だろう。

A so: jo: u totai o do q tai si o do k ja jo: si hame:
そうよ。 喰ったり 踊ったり, 潮時は 良いし, 浜へ
dec jo q te so: ro: sun mon z ja q ta uto: tai oro-
出ていて, 騒動 する もの だった。 喰ったり 踊
q tai to in a mon wa to in a mon wake-s ja wake-s ide
ったり, 年寄りは 年寄り, 若い者は 若い者で
sic jo q t a y a
あるものだったよ。

C matana: ano ga q ko: karajo a: ke N s ja ja q ta
又ね, あのう 学校からさ, ああ 県社 だった
mon z ja kara z i N s j a n o kakusiki g ana: so i de:
もの だから 神社の 格式がね。それで
jakusimazju: no ga q ko: no se i to ga ku q dakedemo
屋久島中の 学校の 生徒が 来るだけでも
ko a na N ze N ni N te jo i jo q t a y a n o
こら, 何千人て 寄り集まるものだったがね。

A z ja q ta doko i z ja na kado
⁽¹⁾
そうである どころでは ないよ。

C so i ja kara nao ni g i jaka q ta…… ima: kono ko a
それ だから なお にぎやかだった。 …… 今は この これ
s ju: se N g oka: ko q ci sa q p a i ja q se N g ote na q ta
⁽⁴²⁾
終戦後から こっち さっぱり 駄目に なった,

w a o
あなたね。

A ho N noko q z ja wa: no ju: yote su q p a i mo na n y a
ほんと だ あんたの 言う とおり, さっぱり もう 何が
na n de g a z ja i j o
何やら だろうか。

C ko i mo ma na n to ka s i te ja q p a i ni g i jakan i
これも まあ 何とか して, やはり 賑やかに
se N nja ika N te ja y a n a o ne N n i i q d o ku: hito cu-
しなければ いけなの だがね, 年に 一度 来る 一つ

no gokurakudemo aqto jak a: kono simano koq
の 娯楽でも あるの だから この 島の こと

(43) zjaeba nijijakan i site hitocu icincidakeja:-
であれば 賑やかに して ひとつ 一日だけは

ne: jakusimazju: asobu cju: hini moton to i
ね、 屋久島中 遊ぶ という 日に、 もとの通り

naosan nja ika Nyana o
直さなければ いけないね。

A zja: dokoi zja naka mukasa⁽⁴⁴⁾ so: otomomo
そうである どころ じゃ ない。 昔は (言いまちがい) お伴も

site hunko:sa:N goto aqta va ima:jo macuin ja
して 踏みつけられる ように あったが 今はね 祭りには

zju: niNbaqkai kite ete sosite siba ja c jueba
10人ばかり 来て おいて そして 芝居 と言ったら

toko: zju kaotai innottai beNto: moqte o:so:-
所じゅう 背おったり 荷なったり 弁当を もって 大騒

ro:re site saikuya i geN naqto jaokai aja
動 (言いまちがい) 歩くが、 どんなに なるのだろうか あれは。
して

C soiga aqpa i jakusimano imano gorakude goraku-
それが やはり 屋久島の 今 娯楽で、 娯楽

kuno sukunai tokoi zja mon zjaka: soi icine-
の 少ない ところ な もの だから、 それを 一年

Nni iqdo tanosimide minna hataku mon zjaka:
に 一度 楽しみで、 みんな 働く もの だから、

so ide nao soreN aqto jo
それで なお そんなに あるのよ。

A nnja soja soi zjato jabaqci kansaman ja omaira
いや、 それは それ なんだ けれど、 神様には お参りは

seNzi oqte sono beNtobaqkai moqte sibaibaqkai
しないで いて、 その 弁当ばかり 持って、 芝居ばかり

miqto ga kin i kuwan tojo oja
見るのが 気に 嘘わないのよ、 わたしゃ。

C z ja z ja: z ja: so i ga so na to ga a q do' ho i ka: jo:
そうだ、 そうだ、 そうだ。 それが そんなのが あるぞ。 それからよう、
mata: ka N s a m a: so q c i n o k e s i c joo i te h o s i t e
又 神様は そっちのけ しておいて そして
e te mi N na mi j a z u eq s i b a i mi j a z u mo' h a z u n -
おいて、 みんな (言いさし) (言いまちかい) 芝居、 宮相撲が はずん
d e N a o (A so:jo) z i b u n d e e: j a k u s j a n i n a: N n j a
でね、 (そうよ) 自分で よい 役者に ならなければ
n a: N c u t e s o a m a k e N k a o s i t a i h i t e m a t a h u t e:
ならない と言って、 そら まあ 喧嘩を したりして。 又 大きい
s i b a i o j o: j a r i j o q t a w a z e N n o i q t o:
芝居を よく やる ものだったわい、 錢が 要るのを。
A m u k a s a h o N n o k o t e (C N:) c j u: s i N g u r a b a q k a i j a N
昔は ほんとに (うん) 忠臣蔵ばかり やる
m o N z j a q t a p a
もの だったよ。
C a n o c j u: s i N g u r a N t o k j a o m i t a c j a i q p e N o m j a:
あのう 忠臣蔵の ときは あんた達は、 一っぺん あんたは、
N a N z j a n a k a q t a k e: a n o o k a r u k a n a N k a d e d e t a
何では なかったかい。 あのう かかるか なにかで 出た
k o t o g a a j a s e N z j a q t a k e
ことが ありは しな かったかい。
A z j a q t a r o o k a r u n i o i m o j o
⁽⁴⁷⁾ そうだったよ。 かかるに 私もよ。
C e: o i m o j o i q d o a: e: i q k w a N t o s i j a q t a k a i n e:
ええ。 私もね、 一度 (言いほどみ) いくらの 年 だったかいね。
z j u: h a c i N t o s i j a q t a k a i m o j o N z j u: n a N N e N n a q d o:
18の年 だったかい。 もう 40何年に なるよ。
a: i m a n o s e N b o N z a k u r a n o a n o: h a: n a N c j u: t o k a i
ああ 今の 千本桜の あのう ほれ 何というのかい。
s u s i j a n o d a N a i j a r a s a e t e n e: a z a j a a k a h a z i
すし屋の段 あれを やらされてね, ひどく 赤耻

k e : t a k o t o m o a N g a
かいた ことも あるよ。

A e : s u s i j a n o a i z j a r o
ええ、すし屋の あれ だろう。

C o s a t o o s a t o
お里。 お里。

A o s a t o j a r o
お里 だろう。

C z j a : r o z j a : r o
そうだろう。 そうだろう。

A z j o z u z j a q t a g a h a r j a z j o z u z j a q t a g a o i m o
上手 だったよ。 ほら 上手 だったよ。 私も

w a
あんた…。

C w a t a s i n o n a w a o s a t o t o m o : s u c j u t e n a :
「私の 名は お里と 申す」 といってね。

A 笑い

C ⁽⁴⁸⁾ j a m o N z j a q t a g a (笑い) o m o i d a k e t a ⁽⁴⁹⁾ o m o i d a k e t a
そうであるもの だったよ。 思い出した。 思い出した。

A o i m o w a z a i k a n a n n e N m a e j a q t a k a N d a m o u t o -
私も ずいぶん 何年 前 だったか わしも 噣
w a N n j a s u m a N z i b u t e : n i a g a q t e u t o i k a t a j a q -
わなければ ならなくて 舞台に 上がって、 噣うもの だっ
t a t o k i n i
た 時に。

C h a z j a o z j a o u t a c j u e b a o s i o b a w a : w a : z a i
はあ そうだろ。 そりゃう。 噣 と言ったら、 おしおさん あんた、 ひどく
m u k a s i k a : k o e n o e : o n a y o j a q t a g a h i t o c u
昔から 声の よい 女 だったが、 ひとつ
u t o : t e k u k i k a s e n k a i m o n a y o k i k a n g a a n o :
唄って (言いまし) 聞かせんかい。 もう 永く 聞かないよ。 あのう

soa nagono bonoro inojo ano: deNcubo odoi
そら (言いまちがい) 盆踊りのね, あのう 錢壺踊りの

(50) tokoi hitocu hitohusi kikasite kuijanka
ところ, 一つ ひと節 聞かせて くれなさらんかい

A deNcubo or oikaja
錢壺踊りかね。

C jo:
うん。

A aja oja kinomo ototemo uto:taga oja mo dae-
私は (言いよどみ) 昨日も 一昨日も 嘸ったよ。 私は もう 疲
cjon yane:
れているんだがね。

C hitohusijo.
ひと節さ。

A hokano utademo uto:kai honna
外の 嘐でも 嘐おうかい, それなら。

C jo: hokan utademo naN demo e:ya hitohusi
うん。 外の 嘐でも 何でも よいよ。 ひと節
kikase
聞かせい。

A naNjo utoeba jokakaine:
何を 嘐えれば よいかいなあ。

C naN demo jokaro
何でも よいよ。

A sa: honna kasaodo idemo utote mi jokaine
さあ, ほうなら 笠踊りでも 嘐って 見ようかいなあ。

C e sohite sohite kuijanka kasaodo i wasueta-
ええ, そして (言いよどみ) おくれんかい。 笠踊り 忘れた
tonara deNcubo ano kotosja mijakokarademo
のなら 錢壺 あのう 「ことしゃ 都から」でも
e:janai kai
いいではないかい。

- A soizjane: kotosja mi:jakokara saqsa daiko-
 それではね 唄「ことしゃ 都から サッサ 大黒
- kusamano o:toqzjono e:bisusamaya owatai zja
 様の 弟じょうの えびす様が お渡り ジャ」
- C a: makotokana
 合の手「ああ まことかな」
- A a: mako:tode: gora:ru owataii nasarete kui-
 唄「ああ まことで ござる お渡り なされて, 杭
- ⁽⁵³⁾ seto tomaiyo: no ⁽⁵⁴⁾ o:mizei ⁽⁵⁵⁾
 瀬と 泊河の おおみぜい」
- C torasjoto (i)jareba toro toro torojo
 合の手「獲らせうと 言いやれば トロ トロ トロよ」
- A to:reba icima:NhaqseN toriagjo medetaina
 唄「獲れば 1万8千 獲り揚げう。めでたいな」
- C o:i ja do:qkoi
 合の手「おおいや、 どっこい」
- A sa:ba:mo cu:re cu:re sa: icima:Nyo:sen
 唄「舗も 釣れ 釣れ サー 1万5千
- s ja:re jo
 シャレヨ」
- C o:i ja do:qkoi jaqpai koa:
 合の手「おおいや どっこい」 やはり これは。
- A sa:maga hunesae: e sa: to:reba jo i irosja:re
 唄「さまが 船さえ さあ 獲れば よい。イロシャーレ
- e: s ja:re jo:
 エー シャーレヨー」
- C ha waqzai nusja to:sja toqtemo mukasino
 はあ。ひどく お主は 年は とっても 昔の
- zju:hacino koe jaqpai sicjoqto jane:
 18の 声 やはり しているの だね。
- A Nda mo jaqsendo: (C u:N) mo haya cuNnukete mo'
 私は もう 駄目よ。 (うん) もう 歯が 抜けて もう

h i t a : m a : r a r u
舌は 回らす。

C mo : to : s i m o t o q c j o q t a : ko e m o o t e t a k a t o omo -
もう 年も とっている人は 声も 落ちたかど 思
c j o e b a j a q p a i z j o q z j a w a i
っていると、 やっぱり 上手だわい。

4. 海 の 遭 難

録音日時 1967年7月19日

録音場所 宮之浦 話し手(D)の自宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
C	岩川貞次	男	明治39年生	商業	既出
D	渡辺好助	男	25年生	無職	~36才(在郷) 37~38才(大阪市) 39才~現在(在郷)

解説： 宮之浦の町外れの高地に居住するDをCが訪ねたが、 目の下に眺める嵐の海のことから、 Dが昭和23年冬、 大成丸(30トン)という木炭をつんだ船に便乗して鹿児島へ渡ろうとしたとき、 嵐であった海が勿ち季節風に襲われ、 大隅半島の佐多岬で遭難して九死に一生を得た体験をつぶさに語る。

C j o s i s u k e o z i o w a h i s s a s i b u i o j a j a q t e k i t a g a
好助さん、 私は 久しぶりに 私は やって 来たよ。
c j a n o m i n i k i t a g a m u k a s i d e m o k a t a r o t o o m o t e
茶飲みに 来たよ、 昔でも 語ろうと 思って。
D sa : sa : do : zo a (0) a c i k u e mo k o k o w a s u z u s u -
さあ さあ どうぞ 上がって 吳れ。 もう 此処は 涼し

s i t e k o w a e : w a i
くて こりゃ よいわい。

- C ma i q s j o b i N m o s a y e t e k i t a t o j a g a : d a i k a b a -
まあ 一升でも さげて 来たのだが 誰か 奥
(59) b a n - s i m o s o k o N s i t a n i i s o m o N t o i d e m o h a s i r a -
さんの人も その 下に 磁もの獲りでも 走ら
(60) s e b a n e j o k a s i o k e g a d e k u d e k u i g o t e a N g a
せればね よい おかげ (言いさし) 出来そうに あるよ。

- D i m a b a b a m o k u r a : i n a : g i n o e k a i s o m o N t o i
今 家内も 来るよ。 風が よいから 磁ものとりに
i t a t e m i s o n i n i t e k u t e m o e r o :
行って、味噌に 煮て 食っても よいぞ。

- C ho : N n o k o t e m a t a n a : g i n o e : k o t o k j o w a k a z e a
ほんとだ。 また 風の よい こと。 今日は 風は
n a n n o k a z e j a o k a i n e k o j a h a e N k a z e z j a : n e : -
なにの 風 だろうかね。 これは 南の風では ない
j o k a i n e :
だろうかね。

- D j a q p a i h a e d e j a r o k o w a k a z e j a
やっぱり 南風 だろう これは。 風は。

- C n o c j a s i k a s i : a r o s i k e t e k u q t o j a n e : j o k a i
後には、しかし 荒く 時化で 来るのでは ないだろか。

- D k o e N h i j a a q p a i o g u b a i k a (z) e d e k o w a n a g i z j a
こんな 日は やっぱり 西南の風で これは 風 だ。

- C s o n e N i e b a ' j o s i o z i a n o t a i s e i m a r u n o i q k e n -
そう 言えば 好助さん あのう 大成丸の 一件
j a k o n n a h i z j a n a k a q t a t o k a :
は こんな 日では なかったのか。

- D a j a m a s j o : w a n i z j u n i n i n e N z j a q b a k a i n e :
あれは まあ 昭和 20 (言さし) 2年 だったかいね。

- C n i n e N z j a q t a k a i h a e m o N z j a n e :
2年 だったかい。 早い もの だね。

cjo:do ma teisen to:zi jaqtaya zju:nigacuno
丁度 まあ 停戦 当時 だったが 12月の

zju:hicinicino bánni sorekusa biro:N biro:N⁽⁶⁴⁾
17日の 晩に それこそ ピロン ピロン

sita wa: agaibaeno⁽⁶⁵⁾ nayino hi jaqta tokoiya
した あんた、 西あがりの南風の 風の 日 だった ところが

soini wa: neqka: ku:sju:yo ja mon' zjakara
それに あんた、 みんな 空襲後 だ もの だから,

hunewa nasi mo sa: tozecusi ko:kaiwa tozecu
船は なし、 もう それは、 杜絶し 航海は 杜絶

sicjoqta tokoiyo soini taiseimaruwa sumio
していた ところよ。 それに 大成丸は 炭を

roqqjaappio: cunde kagoshima iki ja cju: mon
600俵 積んで 鹿児島 行き だと 言う もの

zjakara miN:nano-siga ma binzjo: site nori-
だから みんなの連中が まあ 便乗 して 乗り

konde zenbu okjakusanto seninto site haci-
こんで 全部 お客様と 船員と して 80

zju:nanmei jaqtaro yocjo anda soini wa:
何名 だったろう ように あるが、 それに あんた、

cjo:do goono joziqoro jaqtaya mijanurao
丁度 午後の 4時ごろ だったが、 宮之浦を

dete biro:N biro:N sita ma naøi jaqtaya
出て ピロン ピロン した まあ 風 だったが、

cjo:do takesiman'o heNNi nisanzikana hasigte⁽⁶⁶⁾
丁度 竹島の 辺に 2,3時間 走って、

takesimahukinni ita tokoini cjo: wa nisikara
竹島付近に 行った ところに、 丁度 あんた、 西から

o:yumooda aqakte mo: o:agariga sitato ja⁽⁶⁷⁾
大雲が 上がって、 もう 大あがりが したの だ。

C e: waqze:kaqcuso..... kimoya cubungoto nagtao
ええ、 おそろしかったろう 肝が つぶれるように なったろう。

D sono wa aya ino cu josa cjuwa mo sa; naNzju:-
その あんた 上がり風の 強さ と言うは、もう さあ 何10
neNburingo aya i jaqtarasi:wai (C e:) so:site
年ぶりの 上がり だつたらしいわい。 (ええ) そして
ma iq sjo:keNmei kikaiwa ma:qte satanomisaki-
まあ 一所懸命 機械は 回わって 佐多の岬
ni mukete ma hasiqcjoqta to:to: sono kazeto
に 向けて まあ 走っていた。 とうとう その 風と
namino tameni: wa: tomono ho:kara e: niheN
波の ために あんた、 船尾の 方から、 ええと、 二へん
o:namio kuro:te (C ha:qra) sosite wa to:to:
大波を 嘘って (あらっ) そしたら あんた、 とうとう。

C sonen ningenya soa hacizju:ninmo noqcioqta-
そんなに 人間が それ 80人も 乗っていた
toni nam'i suqka:kete ⁽⁶⁸⁾ mizubuneni naqtatokai
のに 波が ぶちかけて 水船に なったのかい。

D ko:ho:no huneja tomo: umiN naka e cuqkonde
後方の 船は 船尾を 海の 中に 突きこんで
namika: nomarete sono tokino mo: sono soko-
波に のまれて、 その ときの もう その (言いまち
mo hunazokoni noqcioqta okjakusanno-siga hi-
かいい) 船底に 乗っていた お客様の連中が、 悲
meio agete o:sawagini naqte oja ma kaNpanni
鳴を 上げて 大騒ぎに なって。 私は まあ 甲板に
noqcioqta mon zjakara sosite hjoqto hejaka:
乗っていた もの だから、 そして ひょっと 部屋から
tobidasi te mita mitatokoi ja so:sita tokojya
飛び出して 見た。 見たところ だ。 した ところが、
ma wa: gaqcui huneja ma kikaimo eNzimmo
まあ あんた、 全く 船は まあ 機械も エンジンも
mi:Nna mo hi qtomaqte umiN naka e ko sakadaci-
みんな もう 止まって、 海の 中に このように 逆立ち

n i n a q t e o m o t e n o h o
に なって 表の 方。

C s o s i t e o m i j a n a n n i n a n n i c u k a m a e t e t a s u k a q -
そして あなたは 何に (言いよどみ) 捱まって 助かっ
t a t a t o k a
たのか。

D N : o j a m o s o n o j a n e n o j a n e n o h a s i r a n i z i q -
うん。私は もう その 屋根の (言いよどみ) 柱に じっ
t o c u k a m a q t e m a h i t o i k i s i c j o q t a t o k o r o g a
と 捱まって まあ 一息 していた ところが,
m a t a s o n o j a n e m o z e n b u m o u c i k o w a s a r e t e m o
又 その 屋根も 全部 もう うち壊されて, もう
m a q t a k u s o n o h u n e g a m o k u s e n z j a m o n z j a k a r a
全く その 船が 木船 だ もの だから,
h a d a k a b u n e n i n a q t e m o s i k a t a n a k u c u k a m o
裸船に なって もう 仕方なく 捱もう
s a k i m o n a k a j o n i n a q t e k o n d a : d o : n i k a k o : -
⁽⁶⁹⁾ 方法も ない ように なって, 今度は どうにか こ
n i k a s i t e m a b u r i q c i n o h a s i r a n i c u k a m a q t e
うにか して まあ ブリッジの 柱に 捱まって
o q t a t o k o r o g a c u i s o n o b u r i q c i m o m o u c i k o -
いた ところが, つい その ブリッジも もう 打ち
w a s a r e t e m i n : N a n o m o : h a c i z j u : n a N m e i n o
壊されて, みんなの もう 80何名の
z j o : i n g a z e n b u m o m i g i j a h i d a r i n i c i r a b a r a -
乗員が, 全部 もう 右や 左に ちらばら
n i n a q t e c j o : d o s o n t o k i g a z j u : n i z i j a k a n n o
に なって, 丁度 その 時が, 12時 夜間の
z j u : n i z i h a n n o z i k o k u d e s i t a k a
12時半の 時刻でしたか。⁽⁷⁰⁾

C m a q k u r a j a m i k a i
まくら闇かい。

- D ma q k u r a j a m i ja q t a t o j o
まっくら闇 だったのよ。
- C sa i q s u N s a k i m o m i e n t o j a
さあ、一寸 先も 見えないのかい。
- D o : m i e n t o j o s o i p a w a : s a t a m i s a k i j a m a t o : -
おお。見えないのよ。それが あんた 佐多岬は まあ 煙
d a i m o m o u c i k u e : t e na : i m o n a k a t o j o
台も もう うち壊して、 なんにも ないのよ。⁽⁷⁾
- C s e n s o : d e
戦争で？
- D a :
ああ。
- C h a : h a :
はあ。 はあ。
- D s o : s i t e m o s a : d o k o g a n a n j a r a t a s u k e b u n e m o
そして もう さあ どこが 何やら 助け船も
k u r u t e d a t e m o n a i s i d e n s i n d e n w a m o m o : t o -
来る 手だても ないし 電信 電話も もう 杜
z e c u s i c j o r u s i m o : h o n t o m o : k o k o m a d e d e
絶 しているし、 もう ほんと もう ここまでで
z e c u m e i z j a t o o m o : t e m o a k i r a m e c j a o q t a
絶命 だと 思って、 もう あきらめては いた
w a k e j a q t a t o j o n e :
わけ だったのよね。
- C a k i r a m e k i : y a n a q t a k a j a
あきらめられたのかい。
- D m o s a : s u m i n o u e i n o q c j o r u r e n c j u : c j u w a
もう さあ、 炭の 上に 乗っている 連中 と言うのは,
n i z j u : n i N g u r a i s o n o m o k u t a n n o u e j a z o r o q : t o
20人ぐらい その 木炭の 上や、 ぞろぞろと
i k a d a n o u e : n o q t a j o : n i m o n a y a s a e t e s i m o : -
いかだの 上に 乗った ように、 もう 流されて しまっ

t ena:
てね。

- C kodoma: no c joran z jaqtaka
子どもは 乗って いなかったか。
- D mo k o d o m o w a k a r u : t a m a m a n o r e n c j u : m o t a k u -
もう 子どもは 背おうたままの 連中も 沢
san o q t a t o j o
山 いたのだよ。

- C go a i n a y e n e:
かわいそうにね。

- D ro k u n i n k o d o m o m o a n o: i q s o : n o n e: sa i t o:
6人の 子どもも あのう 一済のね, 齋藤
c j u : h i t o n o a N mu s u m e n a n k a k o: k a r u : t a m a m a
という 人の あのう むすめなんか 子を 背おうったま
k a r a d a o j a w a k a r a d a: a d a q t a k e r e d o m o a s u n o -
(言いまちかい) 親は 体は 揚がったけれども, 翌
a s a: s o N k o w a n u k e t e o r a n t a r a o b i d a k e t a -
朝は その 子は ぬけて いないのだよ, 帯だけ た
s u k i g a k e n i s i t e
すきがけに して,

- C m i n n a d e i q k w a b a q k a i s i n d a t o k e
..... みんなで いくらばかり 死んだのかい。

- D c j o : r o j o n z j u : j o n i n b a q k a i s i n d a t o j o n a :
丁度 44人ばかり 死んだのだね。

- C h u t e: g i s e i j a q t a n a:
大きい 犠牲 だったね。

- D h a n b u N h a N b u N s o i y a j o k u a s a k o N d a c j o : d o
半分 半分。 それが 翌朝 今度は 丁度
a s a n o k u z i g o z e N k u z i j a q t a k a j o k u a s a n o
朝の 9時 午前 9時 だったか, 翌朝の。
s a t a n o i z a s i k i n i m i c i s i o d e m o c i k o m a r e t e
佐多の 伊座敷に 満ち潮で もち込まれて,

so : s i t e a s i k o n o s o n o h e t a d e e : s j o : b o : y u m i g a
そして あそここの その 岸辺で, ええと 消防組が

k j u : s a i s i t e k u r e t e s o : s i t e m a : c i : s a k a
救済 して くれて, そして まあ 小さい

k o b u n e o d a s i t e n a : s o : s i t e m a s o i n i m a h u t a -
小舟を 出してね, そして まあ それに まあ 二人

r i z u c u z u (cu) n o s i t e h a k o b i k a t a j a i k i n o k o r i o
ずつ (言いまちがい) 乗せて 運ぶ 始末 だ 生き残りを。

m o s o N t o k i j a m o s o r a n e m u s a g a c u z u k a n t o j o -
もう その 時は もう それは 眠さが 堪えられないよ

n a :
ね。

C s o n e t a r a w a r i t e j a q c j u n e :
そう。 寝たら 悪いの だ と言うね。

D h a : m o m a q t a k u s o a m o g o t a i m o k a n a w a n j a r a
はあ もう 全く それは もう 五体も 叶わないやら,

h i k i a g e t e m o r o : t e i g t a t o k o r o g a o k a n i s o n o
引き上げて 貰って 行った ところが 陸に その

m o k u t a n o t a i t e n a : c j a n t o m a t a (de) m u r u j o : -
木炭を 焚いてね ちゃんと また 眠る よう

n i s i k u n d e a q t e s o k o n i m a s o n o s j u : j o :
に 準備して あって, そこに まあ その 収容
serare take redomo
せられたけれども

C s o N t o k i i k e N z j a q t a k e a : t a s u k a q t a t o o m o -
その とき どんな だったかい。 ああ 助かったと 思
t a k a j a
ったかい。

D h a : m o : n a N m o k a N m o n e m u s a t o n a :
はあ もう, 何も かも 眠さとね。

C a : n e m u s a r e
ああ。 眠さで。

D g o t a i y a m o k o s j a k a n a w a N t o j o
五体が もう 腰は かなわないのよ。

C n a r u h o d o
なるほど。

D mo : j o k o (i) n a q t a m a m a n a i s i t e s o s i t e w a
もう 横に なったまま なに して, そして あんた,
a h i k o n o s e i n e n n o - s i g a m a i r o n n a m a s o n o k i -
あそこの 青年の連中が まあ いろんな まあ その 着
m o n o o m o q t e k i t e k i s e t e k u r e t e m a s o s i t e
物を もって 来て, 着せて くれて まあ そして
m a k a j u n o m i z u m i t a j o n a k a j u o s u s u q t e s o :-
まあ 粥の 水 みたような 粥を すすって そ
s i t e m a t t o : t o : m a t a s u k a q t a w a k e j a q t a i p a n a :
して まあ どうとう まあ 助かった わけ だったんだがね。

(C e:) s o i k a r a s o n o m a h i w a k o n d a i c i z i c u s o -
(ええ) それから その また 日は 今度は 一日 そ
n o k u b i z i q k e n z j a c u t e n a : a h i k o n o s a t a n o
の 首実見 だ と言ってね, あそこの 佐多の
c j u : z a i s j o k a r a a s i d o m e o s e r a e t e s o : s i t e m o
駐在所から 足留めを せられて, そして もう
s i t a i y a z u : q t o a q p a i s o n m o u i t e a g a t e
死体が ずっと やはり その もう 浮いて 上がって
k i t a r i o k i o n a g a e t e i k u t o k o m o s o n o a q t o j a -
來たり, 沖を 流れて 行くのも その あるのだ
k e d o m o s i k e t o r u m o n z i a k a r a s a o m o t o d o k a n s i
けれど, 時化している もの だから, 棒も とどかないし
h u n e m o d e r a r e n s i s i t e m i n a g a r a j a q t a t o n a :
舟も 出ないし して, 見ながら だったのさ。
m o : o N n a n o - s j a : m o k a m i m o j a N b a r a n i t o k e t e
もう 女の連中は もう 髪も ばらばらに 解けて,
s o : s i t e m o : h j o r o : N h j o r o : N u k i s i z u m i s i t e
そして もう ヒヨロン ヒヨロン 浮き沈み して

i ku s u y a t a c j u w a h o N t o n i m o k a w a i s o n a m o N
行く 姿 と言うは、 ほんとに もう 可哀そうな もの

z j a q t a t o n a
だったのよ。

C m o k o n o j o n o i k i z i g o k u j a q t a t o j a n a
もう この 世の 生き地獄 だったのだなあ。

D h a :
はあ。

C h a
はあ。

D m o w a s i m o a N t o k i s i n e b a k o r a i m a : m o :
もう 私も あの 時 死ねば ほれ 今は もう
z j u : h i c i n e N k i n o n e N k i m a c u i m o (笑い) h e q s i t e m o -
17年忌の 年忌祭も (せき) して 貰
r o c j o q t o k i j a r o t o m o c j o q t o k i j a o t o o m o c j o -
っている とき だろうと 思っている とき だろうと 思っている
q t o k o i z j a (笑い)
ところ だ。

C m a s o j a k j o : w a s o a m o e : t o k o i n i m i h a r a s i n o
まあ それ、 今日は それ もう 良い 所に 見晴しの
e : t o k o i n i e : b e q s o : d e m o c u k u q t e z j u : h i c i n e N
良い ところに よい 別荘でも 造って。 17年
t a t e b a j o n o n a k a : e : s i n d a h i t o i k i q t a h i t o
立てば 世の中は、 ええ 死んだ 人 生き残った 人
k a w a q t a m o N (D N :) z j a o w a i s o a k j o w a m a
変わった もの うん だろうわい。 ほれ 今日は まあ
u n t o i q s j o m o q t e k i t a k a : n o m o w a i
うんと 一升 もって 来たから 飲もうわい。

D h o N n o k o t e m o k o a : m o e N m a n o c j o : m e N n j a d o -
ほんとだ。 もう こりゃ もう 閻魔の 帳面には ど
h i t e N m o a k a s e N n o h i : t e m o : z j o s e k i n a q c j o -
うしても もう 赤猿を 引いて もう 除籍に なって

q N mo N z jao g o t o a r a i mo i q t o k j a s i n j a n a : -
いる もの だろう ように あるわい。もう 暫らくは 死ぬことは で

N m e (笑い)
きまい.....。

Cma s o N t o k o i d e h i t o c u k j o w a i q p a i n o m o
まあ その ところで、ひとつ 今日は 一杯 飲もう。

D h a i
はい。

C a :
ああ。

注

- (1) [p. 6] 屋久島電気興業会社をいう。
- (2) [p. 6] mo N no は方言の文末助詞「ものを」の意。
- (3) [p. 6] 地区の名。
- (4) [p. 6] 地区の名。waqda は語原は脇田であるかも知れないが、脇町のことを言う。ただし waq ka のようにひびく。
- (5) [p. 7] deka は不確かの意の助詞。ほぼ「やら」に当たるが、あとに推量体の文がつづく。オッデカ ジャイヨ オランデカ ジャイヨ(いるやら(だろう)いないやら(だろう))。ジャイヨは「ぢゃるらう」から転じた。
- (6) [p. 7] ci qo:t eiku の i がおちた形。
- (7) [p. 7] zjar u+wai (じゃる+わい)
- (8) [p. 8] noritoraN の訛り。動詞連用形に「取る」がつくと、動詞の完了・完済を示す。
- (9) [p. 8] si u:sibaqcimo のようにひびく。(話し手の歯のぐあいに由るか)。cju:baqcimo あるいは cibaqcimo のいずれかで十分。頭の cju: — を生かすか、腹の -ci- を生かすか。
- (10) [p. 8] jao ikaN は簡単に行かない。軽く扱われない。大したものだの意。
- (11) [p. 8] 大いにたいしたものだ。「何々どころかい、何々どころではない」という表現形式は、問い合わせに対して、むろんそうだと肯定するときによく用いられる。
- (12) [p. 8] 種子島の西表(市)のこと。
- (13) [p. 9] 「大変に」とありたいところ。
- (14) [p. 9] ziakarane: の訛り。
- (15) [p. 9] あとに「まだ田舎だった」と言いたいところを、A にへし折られる。
- (16) [p. 10] naq teiku の訛り。
- (17) [p. 10] 語の由来不詳。
- (18) [p. 10] 「ほんとにそうなのだ」の意味。注11 参照。
- (19) [p. 10] siwa: のようにきこえる。
- (20) [p. 11] 「大いに思う」の意味。注18 と同類
- (21) [p. 11] 「為が要らん」の形で「何々しなくてもよい」の意を表わす。
- (22) [p. 12] baqtai na:N は「すっかり成らぬ」の義で、「駄目だ、行き詰った」の意味で用いる慣用句。

- (23) [p. 12] ikaNc jaga (\leftarrow ikaNto jaga) の転。
- (24) [p. 13] 本妻の名前。
- (25) [p. 13] 情婦の名前。
- (26) [p. 14] wa: peno ('わが家の' 義) の転。
- (27) [p. 14] つっぱねて、離婚しての意。
- (28) [p. 14] このあとに「すなわち」という語を入れると、意味が通じよい。
- (29) [p. 15] ciuteoiteの編形。
- (30) [p. 15] 大事にしていることをいう。
- (31) [p. 15] jute は無しでよいが、話し手は ciute のあとにこれを重ねる癖がある、後にも出る。
- (32) [p. 16] moq te itate を縮めると moq tate とか moqtaite とかになる。後者の -i- は強めの添加か。
- (33) [p. 17] toqtasu のようにきこえる。
- (34) [p. 17] --desujo は標準語的。
- (35) [p. 18] --ozi は年配の人につける敬称接尾語。「叔父」の義。
- (36) [p. 18] 「からくり」の訛り。
- (37) [p. 18] 「責め殺されて」の義 「殺される」は接尾語で「大いに責められて」の意。
- (38) [p. 18] 禍(ワザワイ)を形容詞化し「おそろしい、大変な」などの意に使う。副詞的にも使う。訛形多し。又カ語尾形容詞としても用いる。以下対話に頻出。
- (39) [p. 19] Nd omi は Ndo だけで自称代名詞だが、それと「身」という自称代名詞の複合したもの。
- (40) [p. 19] 「踏み殺さるる」の義。注(37)参照。なお「一るる」の部分は koro saoru (殺さるる), naga oru (流るる) 式に一 oru と変化する。
- (41) [p. 20] 「ほんとにそうだ」の意。
- (42) [p. 20] 「役せぬごとなつた」の義。
- (43) [p. 21] 断定の助動詞「じゃ」の已然形「じゃれば」である。
- (44) [p. 21] 「もちろんそうだ」の意。
- (45) [p. 22] 「御身たちは」の義。最高敬意の対称。しかし文末表現はそれに照応しない。
- (46) [p. 22] 「御身は」の義。
- (47) [p. 22] zjaqtado が薩隅方言的。ただし推量形にあらず。
- (48) [p. 23] ja は jai ともいう。断定助動詞。ここでは連体形。
- (49) [p. 23] --daketa は deketa (出来た) と dasita (出した) の混合形。
- (50) [p. 24] 「呉れやらぬかい」の義。
- (51) [p. 24] 「だれでいるがねえ」の義。

- (52) [p. 24] mi roka ine: の転。
- (53) [p. 25] ともに地名。kui seは本来暗礁の意味だったが、今は固有名詞化したといわれる。
- (55) [p. 25] 大魚群をいう。小さい方はカチという。「青味勢」の義か。
- (56) [p. 25] 「役せぬぞ」の義。
- (57) [p. 26] toq cjo q hita: の hi が落ちたか。
- (58) [p. 26] 標準語。
- (59) [p. 27] ここでは ba ba は相手の奥さんに対して用いている。「婆」の義だ。
- (60) [p. 27] 磯ものは磯でとれる貝類をいう。
- (61) [p. 27] 「塩氣」の義か。酒の肴。
- (62) [p. 27] '-deは余計か。
- (63) [p. 27] ogubaikazeはokubaikazeが普通で、西寄りの南風をいう。
- (64) [p. 28] 油を流したような海面のおだやかさをいう。
- (65) [p. 28] 西南風をいう。南風が西へ変ることを「上がり」という。
- (66) [p. 28] トカラ列島のうち口ノ三島の一つ。
- (67) [p. 28] 「大あがり」は風が西へ変わらざい、疾風となるをいう。
- (68) [p. 29] suq kaketeの長音化した形。suqは強意を示す接頭語。
- (69) [p. 30] 「先」の義だが、「…する先もない」という句は、すべがない、という意に用いる。
- (70) [p. 30] —desitakaは標準語的。
- (71) [p. 30] 「うちくやして」の転。くやす（壊わす）は古語。
- (72) [p. 32] 「業らしなげねえ」の義。「業らし」は「可哀そう」の意味。
- (73) [p. 32] 上屋久の漁港名。
- (74) [p. 32] —keredomoは標準語的。
- (75) [p. 32] ora n to o jar uwaの短縮形。jar uは断定の助動詞。
- (76) [p. 32] 80人中死者約40名、生者約40名だからいう。
- (77) [p. 32] 大隅佐多岬の港名。
- (78) [p. 33] 「へた」は「沖」に対してもう語で、陸寄りの海をいう。
- (79) [p. 33] 「続かぬ」を「堪えられない」意に使う。
- (80) [p. 33] (de)muruはnemuruが正しいのか。不確か。
- (81) [p. 33] —keredomoは標準語的。
- (82) [p. 34] ikutomoの言いまちがいか。

非 壳 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町